



◎院長より

みなさん、いろいろ大変でしょうが、前を向いて、人を思い、他人の幸せを祈り、じっと静かに佇み（たたずみ）広い目で本質を見極めましょう。そして病気の方は無理をせず、ともに戦ってゆきましょう。

●今月の言葉

make a difference 毎日、一歩ずつ進み、何かを変えよう。一日生きる中で、必ず1回はあっと驚くようなことがあるはず。いいことも、よくないことも。自分で、貴重な経験としてそれらを積み重ねていけば、将来、自分にとってとっても素晴らしい、とんでもない目に見えない財産になる。

イアン・ライズリー氏

●院長から 実践面において 答えします

①診察室で指に挟んで測るあのちいさな機械はなんですか？

気管支炎、喘息、肺炎など呼吸障害の程度を即判断する便利なものです。高齢な方の、一見何でもないように見えても、心不全、慢性呼吸不全などよく発見されます。SP02（酸素飽和度計）

②先生がたびたび、患者さんの手をふれるのはなぜですか？

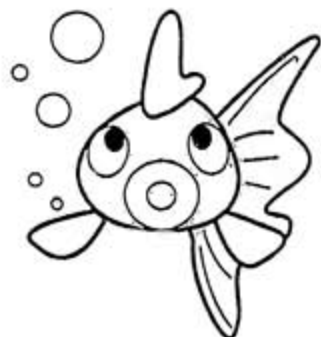
患者さんの脈を診ています。やや重症な病気がありそうとき、いくつもの全身の変化が分かります。そうよく中国・韓国の時代劇で医師が高貴な人の脈診をしてる場面がありますね。たくさんの情報が得られるのですよ。

③胆石があるのですが、なぜ症状がほとんどないのに薬をずーっと飲み続けるのですか？

胆石の存在による急変がよく起こります。たとえば、胆管炎、胆嚢炎、黄疸、肝障害、です。昔はよくお正月などに緊急で病院に運ばれてこられて、緊急手術をしてもすでに重症胆嚢炎のため手が付けられないことが良くありました。がんなどではなく、良性疾患のために命を落とさないためです。リスクの高い胆石の場合は、内視鏡的胆のう摘出術を中途でお勧めします。胆管に落ちやすいちいさな石の場合は、とくに高齢の患者さんには、気をつけねばなりません。瞬く間にAOSC（急性化膿性胆管炎）からショック状態になります。



# August



④先生のところでは肛門は見ないのですか？

いえいえ、私どもはれっきとした肛門科です。得意分野です。

⑤薬をなるたけたくさん貰いたいのですが、かつよく効くのを。

待ってください、いろいろつらいことがあるのはわかりますが、院長は目のまえの症状をただ止めるだけの薬をたくさん出すことはお勧めしません。原因をみきわめて解決することが先です。また強い薬をいくつも、そのたびに服用すると病状を長引かせることにもなります。むしろ、患者さんの協力を得て、一緒に治すことが大切です。

⑥最近、64列CTによる造影3相（造影の仕方）が増えてきています。おかげで、がん研究センター東病院などへ紹介、手術される方々も増えていきます。たとえば、肺癌・すい臓がん・肝臓がんなどです。

⑦また、痛みの治療の患者さん、なかなか治療が難しいケースが当院に集まっています。一般診療中の中で、神経ブロックを行っていますので、お待ち時間が時に長くなることがあります。どうぞお許し下さい。比較的空いている時間帯もあります。受付におたずね下さい。

⑧熱中症になりかけたら、すぐに当院に連絡し、来てください。お子様でも、重症化してのちほど様々な病気を引き起こすことがあります。免疫力が急激に低下するためです。

## <人生の先輩から教わった事>

お皿は洗わなければ、割れることはない。



## ●院長の仕事（7月）

- 3/（月）夜間 RC 会計業務 松戸
- 8/（土）夜間 青少年留学生 JANA・AIKO・OGLU 見送り 成田空港へ
- 10/（月）昼 当院カンファレンス 当院にて
- 18/（火）夜間 松戸市医師会・理事会 監事として出席 衛生会館
- 22/（土）夜間 発達障害について 勉強会 千葉
- 23/（日）夜間 松戸市小児夜間急病診療所 勤務 松戸市立病院
- 26/（水）昼 ヒッポファミリークラブ・中山さん 来院

夏本番、厳しい暑さが続きますね  
暑さ対策をし、熱中症には  
気をつけましょう。

今月担当 島津

